

Case 8-2009: A 36-Year-Old Woman with Headache, Hypertension, and Seizure 2 Weeks Post Partum
(N Engl J Med 2009;360:1126-37)

【患者】36 歳女性

【主訴】頭痛、高血圧、けいれん

【現病歴】当院入院の 19 日前に他院で帝王切開（骨盤位）にて健康な双子を出産（妊娠 35.6 週）し、5 日後に退院した。妊娠経過中に高血圧や頭痛などの合併症はなかった。入院 9 日前に間欠性、拍動性の両側前頭痛が始まり、入院 7 日前に産婦人科医の診察を受けた。診察時、痛みは visual analog scale (VAS) で 8/10、血圧 150/72 mm Hg であった。診察後まもなくして痛みはおさまったが、同日夜より再度頭痛が出現し、別の病院の救急外来を受診した。受診時血圧は 190/80 mm Hg、頭部 CT、頭部 MRI、頭部 MRA、lab test は正常だった。オキシコドン、アセトアミノフェンを処方され帰宅した。

患者は入院 4 日前に内科医に再診し、早朝と夕方に強く、突然始まる頭痛を訴えた。診察時鈍い頭痛 (VAS 2/10) を訴え、診察上、血圧は 142/78 mm Hg、末梢にかすかに浮腫を認めた。フロセミドと塩化カリウムが処方された。

当院入院 2 日前に嘔気と羞明を伴う強い頭痛 (VAS 10/10) で救急外来を再診した。再診時の血圧は 204/96 mm Hg、ヘマトクリット 34.7%、その他の血算に異常なく、血清生化学で電解質、腎機能、肝機能に異常なく、尿比重 1.020、尿 pH 6.0、尿中蛋白 30 mg/dL、尿中赤血球 5~10 /hpf だった。塩酸モルヒネを静注した後、まもなくして全般性強直間代性けいれんが出現し、尿失禁と 2 分間の意識消失を伴っていた。頭部 CT は異常なし。脳脊髄液検査では細胞なし、蛋白 64 mg/dL (参照値 15-45 mg/dL)、糖 54 mg/dL (参照値 47-70 mg/dL)、グラム染色陰性、培養陰性であった。メトクロプラミド、ロラゼパム、フェンタニルを静脈内投与し、オキシコドンとメチルドーパを経口投与したところ、収縮期血圧は 140-160 mm Hg 程度で、前頭部の頭痛は持続した (VAS 4/10)。硫酸マグネシウムとヒドララジンを静脈内持続投与し ICU (他院) に入室となった。

入室翌日の MRI で後頭葉白質に FLAIR 上信号強度の変化を認め、MRA で全ての頭蓋内の動脈に複数の狭窄と拡張を認めた。入院 3 日目の朝に不穏を認め、5 分間の失語症状と右片麻痺が出現したため、アスピリンが投与された。頭部 CT 上急性の脳梗塞や脳出血を認めなかった。失語のエピソードが出現した 4 時間後、患者は当院に救急搬送された。

【妊娠出産歴】34 歳時、正期産で健康な児を出産。周産期合併症なし。

【既往歴】なし

【生活歴】喫煙なし。飲酒なし。違法薬物使用歴なし。経口避妊薬使用歴なし。

【家族歴】母：高血圧、父：心血管系の疾患。子癇の家族歴なし。

【薬歴】フロセミド、鉄剤、ビタミン剤、オキシコドン、アセトアミノフェン。

【現症】意識清明、見当識正常、情動正常、体温 36.8°C、血圧 131/91 mm Hg、脈拍 95 bpm、呼吸数 24 回/分、SpO₂ 98%(室内気)。末梢浮腫(+)、その他の身体学的所見は異常なし。発話は流暢で明瞭だが反応が遅い。第Ⅱから第ⅩⅡ脳神経正常、筋力は右 4/5、左は正常、急速交互運動試験、指鼻試験 (右示指で鼻を触れない)、踵膝試験で運動失調あり、歩容は観察せず、その他の神経学的所見は異常なし。

【検査所見】D-dimer 1975 ng/ml (正常 <500 ng/ml) と高値。血算、血清電解質、カルシウム、リン、マグネシウム、腎機能、肝機能に異常なし。脳波に異常なし。

【入院後経過】フォスフェニトイン、ラベタロール、硫酸マグネシウムを経静脈的に持続投与し、収縮期血圧は 110-120 mm Hg の範囲内だった。入院初日に意識レベルの変動と間欠的な右片麻痺を認め、MRI および MRA で実質病変の拡大と多発動脈狭窄の悪化を認めた。

入院 2 日目、持続脳波モニター上デルタ波とシータ波の間欠的な徐波化を両側性に認め、間欠的な低振幅のベータ波を両側性に認めた。てんかん様の脱分極を認めなかった。血漿トリグリセライド 168 mg/dL (参照値 40-150 mg/dL)、抗カルジオリピン IgM 抗体 17.9 単位 (参照値 0-15 単位)、赤沈 51 mm/h (参照値 <25 mm/h)。その他の脂質、CK、troponin T、thyrotropin、補体 (C3、C4) は正常。その他の自己抗体 (抗 proteinase 3 抗体、抗ミエロペルオキシダーゼ抗体、ANCA、抗カルジオリピン IgG 抗体、抗核抗体、リウマトイド因子) は陰性。同日昼に、右腕と両下腿に脱力感が出現し、意識レベルが低下した。追視はしないが指示通りに指を動かすことはでき、刺激で腕や足を動かし、まれに質問に返答する。時々開眼したまま応答がなくなる。

ここである診断的手が施行された。